

選外佳作の一

積木の御殿

中野 静

お母様が、よそにお出かけになつたので晃さんは、つまらなくなりました。廣いお部屋にたつた一人ポッチになりましたので、押入れをあけて大きな箱をかゝへ出しました。此の間、晃さんのお誕生日に叔母様に頂いた積木の箱なのです。その積木は、他の積木と違つてコルクで出来てゐる側が赤や青、緑、黄でぬつてあります。晃さんはお友達のない時は、いつもこの積木で汽車をこしらへたり、お家をこしらへたりして遊びました。今日は晃さんは細長いのを先づ二本立てゝ、御門を作りました。そしてその兩側に青い積木をすらりこ竝べて塀にしました。

「さうくこの御門、戸がしまつてゐるのにしませう」

御門に扉をつけました。

「この残りで……さうくお家をこしらへませう」

だん／＼積木のお家が出来て來ます。高い／＼立派なお家になります。お屋根の上に一本柱を立てることも立派なお城です。晃さんは得意になつて、まるで自分がこの立派なお城の王様の様な氣がしました。それで玩具のサーベルを出して來て下げました。扉をあけて御門の中に入りたいと思ひました。でも御門は積木で小さいのですもの。晃さんがぎんなにしても入ることはできません。

.....

所がいつの間にか、きこからか勇ましい軍樂隊のラッパの音がすると思ふに晃さんは御門の中の砂利道をしづ／＼歩いてゐました。兩側には軍服をつけて白い鳥毛の帽子をかぶつた小さな兵隊さんがずらり並んでゐます。

晃さんは、にこ／＼してけんつき鐵砲で捧銃をしてゐる兵隊さん達に失敬をしながら行きま

す。軍樂隊達はドンドコトテト〜と勇ましい音楽で迎へてくれます。晃さんが積木の御殿に入りますと、小さい大將さんや中將さんも五人後からついて來ました。

王様のお部屋に入つて金ピカのお椅子に腰かけますと、大將さん達の中で、一番えらさうな白のお髭を生した人が

「王様！これから何かお祝ひを致しませう」

でも晃さんはお祝ひよりも元氣な事が好きなのです。

「觀兵式をやらう」

「ハイ〜、かしこまりました。では早速」

晃さんの王様はうれしくてたまりません。得意になつてお部屋を出ました。白のお髭の大將に案内されて表の庭へ出ますと、立派な事立派な事!! まはりには美しいお花が咲きそろつ

て、中は廣い廣い練兵場です。

小さな兵隊さん達は幾列にも竝んで勇ましい軍樂隊に合はせてトットコ〜進みます。

晃さんの王様が

「飛行機もタンクも皆観兵式に出て来い」

「命令しますよ、すぐ空にはブルン／＼／＼／＼勇ましいいうなりを立て、五臺つゝきれいに竝んだ飛行機が飛びます。兵隊さんの進んだ後にはタンクや装甲自動車ですらり／＼竝んで下カ／＼ガタ／＼／＼進んで来ます。晃さんの王様が手をたゝいてほめますよ、小さな兵隊さんも飛行機もタンクも皆

「王様バンザーイ 王様バンザーイ」

「両手を上げて喜びました。」

観兵式がすんで食堂で皆でおごちさうを頂く事になりました。晃さんは一番真中の一番おいしさうなおごちさうのテーブルに著きました。さあ美しい色に輝いてゐる果物！おいしさうなお菓子！

「これから食べやうかな！ よだれがたれる」

と言つて先づきれいなチヨコレートのお菓子を、お口に入れやうとした時です。

「まあ晃さんは！ホ、何がおいしいのですの」

こ、やさしいお母様のお聲です。晃さんはバッチリ眼がさめました。晃さんは積木の御殿の御門の入口でお晝寝をしてゐたのです。

「まあ、今の夢だつたのか」

でもお母様は本當に、さつき夢の中に出て來た小さい兵隊さんの玩具を、さつき食べたやうなおいしい、お菓子をおみやげに買つて來て下さいました。

「やあ、うれしいな〜」

晃さんは、さつきこしらへた積木の御殿にその兵隊さんを並べました。

そして夢で見たよりも、もつこ〜面白く遊びました。

「をばり